

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
〔地域日本語教育実践プログラム(A)〕
実施内容報告書

団体名： 公益財団法人 大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐみ事業 ～外国人から支援ボランティアまで～
事業の目的	言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばし、生活に必要な情報等を得て、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設けることで、地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎をはぐくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人市民に寄り添うことで、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	大垣市を中心とした地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人の割合は約2.6%と全国平均より高い。近年は日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する外国人の増加や国際結婚の増加により、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。これまで実施してきた日本語教室は、喫緊の課題である「ほとんど日本語が話せない外国人」が最低限の日本語能力を得ることを目的としてきた。しかし、日本社会で中長期的に暮らす中で必要となる医療・子育て・教育などの場面での日本語を理解する必要性が高まり、そのような日本語を学習したいという要望もあるが、実施できていないのが状況である。
事業内容の概要	地域在住の外国人が日本語や地域生活のルールを習得する「日本語教室」を実施する。従来実施してきたほとんど日本語が話せない外国人を対象とした日本語の基礎を学ぶコースの継続に加え、買い物・子育て・防災・医療などの日常生活の様々な場面の会話と大垣の生活情報や行政情報も学ぶ会話学習に特化したコースを開講し、外国人の背景や要望の多様化に対応する。基礎コースから会話コースまで継続して開講することで、ゼロ初級レベルの学習者を含め、あらゆる日本語レベルの外国人が生活に必要な情報を得るための日本語コミュニケーション能力をはぐくめる学習機会を提供する。 また、日本語学習をサポートできる人材を多くはぐくむために「日本語指導ボランティア講座」を実施する。外国人のこころに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行うことで、継続的かつ自律的に日本語教育を実施できる。 合わせて、この地域での日本語学習に役立つ教材の作成を行う。単なる語学教材ではなく大垣での日常生活に必要な生活情報・行政情報を掲載することで、外国人が自主的に学習し、自立した生活を助ける教材を作成する。なお、この教材を効果的に活用するため翌年度以降の日本語教室で使用し受講者に配布することを目指す。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

〔運営委員〕

1	伊藤 かな	岐阜経済大学 非常勤講師
2	市橋 剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚 親子	大垣市立西小学校（日本語教室担当）
4	岡本 幸	CAPCO（大垣外国人コミュニティサポートセンター）代表
5	柏谷 涼介	ホツマインターナショナルスクール 総括教務主任
6	桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課 主幹
7	所 渉子	大垣市多文化共生サポーター事業 コーディネーター
8	社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会 事務局長



〔概要〕

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年7月23日（土） 15:00～17:00	2時間	大垣市サイトピアセンター 学習室3-3	市橋 剛、大塚 親子 岡本 幸、柏谷 涼介 桐山 知弘、所 渉子 社本 久夫、吉安 三恵 熊谷 康宏	①平成28年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・各取組の内容及び実施状況を説明し、より効果的な取組とするために活動内容の改善点を検討した。 ②事業成果の検証方法の検討 ・事業の成果検証手段となるアンケート案を基に、目標・目的を効果的に評価できるものか検討し、修正案の話し合いをした。
2	平成28年10月29日（土） 15:00～17:00	2時間	大垣市サイトピアセンター 学習室3-3	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 柏谷 涼介、桐山 知弘 所 渉子、社本 久夫 吉安 三恵、熊谷 康宏	①平成28年度の事業の実施状況及び評価（中間報告） ・各取組の実施状況と、既に終わった取組のアンケート結果（日本語教室第1期他）と、各取組への視察を通して目的・目標への達成度を協議した。 ・教室活動の進め方について、より効果的な方法や改善点を検討した。 ②平成29年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・来年度に向けて、今年度の取組から改善していくための改善点を検討した。

3	平成29年3月4日(土) 15:00~17:00	2時間	大垣市サイトピアセンター 学習室3-3	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 柏谷 涼介、桐山 知弘 所 涉子、社本 久夫 吉安 三恵、熊谷 康宏	①平成28年度の事業評価について ・アンケート結果及び視察を通して目的・目標への達成度を協議した。 ②平成29年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・事業の計画(前回の会議からの変更点など)を説明した。
---	-----------------------------	-----	---------------------	--	--

(2) 事業の実施体制

生活者としての外国人に関連する当地域の主な関係機関・団体に所属する人が運営委員会に入り、うち2名が中核メンバーとして事業を推進する体制で実施した。大垣市と複数の事業で協力・連携のある大学に所属するメンバー及び地域の日本語教育機関のメンバーがコーディネーター並びに中核メンバーとなり、行政・日本語教育機関・事業実施主体との連携ができた。

なお、各機関・団体の役割としては、当協会はこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知やボランティアの募集を中核的に行った。地域の大学で日本語教育に携わるコーディネーターと共に地域の外国人の実情に即した日本語教育プログラムを作成し、日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供・連携し、それぞれの専門性を活かした実施体制を作り、参加者に受け入れられやすい事業を行うことができた。

(3) 地域における連携体制

大垣市、日本語教育を行っている地域の大学・日本語学校、小・中学校、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員ら日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者が運営委員会のメンバーに入り、多角的かつ実効的な検討・検証ができた。各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力した。また、在住外国人による団体と共に取り組むことで、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させ、地域の課題解決に繋げることができた。このような関係機関・団体と連携の連携体制の中で、新しいつながりができ、また課題を共有し、今後地域全体として多文化共生のために何が必要かを共に考えることができた。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：外国人 市民のための日本語教室「基礎コース2016」】									
目的・目標	地域で暮らす中で必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指し、やさしい日本語での会話ができるようにする。								
対象	日本語での意思疎通がほとんどできないレベルから、簡単な日本語を使い会話ができるレベルの外国人								
取組の内容	・「自分のことを伝える」を大きなテーマとしたカリキュラム（地域の住民との人間関係のきっかけを作り、受け入れてもらうため）（別紙カリキュラム参照）で実施した。具体的には自分自身のこと、家族のこと、自国のことなどを表現できる日本語の学習と、基礎文型の学習を行った。 ・指導者がスライドによる視覚的資料を使い、基礎レベルの授業を行った。 ・学習者が多く発話できるよう、会話練習の機会を多く設けた。指導者だけでなく、指導者アシスタントとして参加したボランティアも学習者の様子を見ながら支援をし、会話練習の相手役も務めた。 ・3回学習ごとに1回の復習回を入れ、振り返りによる学習内容の定着を図るとともに、学習者自身が学習状況を把握し自発的に目標や計画を立てられるよう導いた。 ・ひらがな・カタカナの文字の読み書きを学ぶ文字学習（15分）の時間も取り入れ、アシスタントとして参加したボランティアが主導となって進めた。 ・授業の最後に、その日学習した構文（質問の構文と回答の構文）を自分で「ふりかえりシート」に記入する時間を作った。自分自身で記録することで、学習者が身につけ、復習したり、使って会話ができるように導いた。 ＜指導者アシスタント（補助者）の参加＞ ・各回3人程度の日本語指導ボランティア（日本語指導ボランティア講座受講者含む）がアシスタントとして参加して、グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェックなど指導者のサポートをした（指導者アシスタントは無償）。 ＜託児の実施＞ ・子育て世代の外国人の学習環境を整えるため、日本語教室の実施に併せて託児室を開設した。託児の利用実績は3人。 ＜コーディネーターの設置＞ ・事業全体のコーディネーターとは別途、日本語教育の実施の部分のみをコーディネートするコーディネーターを設置した。教室のカリキュラム作成、教材の選定・作成、指導者の調整およびカリキュラムの伝達、各回の引継ぎ連絡等をした。								
実施期間	第1期：平成28年6月5日（日）～平成28年8月21日（日） [全11回] ※実際は、5月8日からの全15回で実施（5月実施（4回）分は、自主財源で実施した）し、2期と同様の15回のカリキュラムで実施。 第2期：平成28年10月2日（日）～平成29年1月22日（日） [全15回]				曜日・時間帯		日曜日（9:30～11:30）		
開催回数	全52時間（1回2時間×26回（第1期：11回＋第2期：15回））				開催場所		大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室ほか		
参加者	総数82人 （日本語学習者 54人（1期：22人、2期32人）、 指導者 8人、支援者（アシスタント） 20人） （参考） 学習者の平均参加者数：1期：13.6人、2期：12.7人				使用した教材・リソース		日本語教育のコーディネーター作成プリント、スライド資料		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	5人（1期：3人、2期：2人）	1人（1期：0人、2期：1人）	23人（1期：7人、2期：16人）	10人（1期：5人、2期：5人）	0人	0人	1人（1期：1人、2期：0人）	2人（1期：1人、2期：1人）	7人（1期：3人、2期：4人）
マレーシア（3人（1期：2人、2期：1人））、アイルランド（1人（1期：0人、2期：1人））、カナダ（1人（1期：0人、2期：1人））									
カリキュラム案活用	・「Ⅶ 人とのかかわる」の自己紹介、母国や家族の紹介 ・「Ⅷ 社会の一員となる」の日程や場所の把握 の内容を中心に活用した。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	（第1期） 平成28年6月5日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	12	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は○人です」、「子どもは○歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習		藤原 弥央	江木 洋治 川瀬 紀美 福田 明弥 度會 千穂
2	平成28年6月12日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	16	家族の性格を伝える	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習		藤原 弥央	大橋 舞雪花 田中 喜久雄 林 光子 山下 富美子 米倉 由光
3	平成28年6月19日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	12	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「（記念日）に（人）に○○をもらいました」「あげました」など授受表現の学習		藤原 弥央	伊藤 祥 大橋 舞雪花 田中 喜久雄
4	平成28年6月26日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	11	1～3回の復習 （第1期の1～3回）	1～3回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、家族の職業や性格など、家族を紹介する表現を使えるようにする学習		藤原 弥央	市橋 剛 伊藤 祥 川瀬 紀美 福田 明弥

5	平成28年7月3日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	15	母国について伝える ①	位置、方角、「日本の〇倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	古川 裕望	市橋 剛 川瀬 紀美 米倉 由光
6	平成28年7月10日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	14	母国について伝える ②	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	藤原 弥央	大橋 節子 山下 富美子 米倉 由光
7	平成28年7月17日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	14	母国について伝える ③	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	佐藤 幹樹子	江木 洋治 大橋 麻奈未 福田 明弥
8	平成28年7月24日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	11	5~7回の復習 (第1期の5~7回)	5~7回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、母国の名物や食べ物など、国や場所を説明する表現をできるようにする学習	藤原 弥央	大橋 節子 大橋 麻奈未 度會 千穂
9	平成28年7月31日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	16	友人関係を作る(誘う)①	人を誘ったり、誘いに応じたりすることができるよう「今度、一緒に○○ませんか」やそれに答える会話の練習	藤原 弥央	大橋 節子 度會 千穂
10	平成28年8月7日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	16	友人関係を作る(誘いに応じる)②	前回の勧誘表現を踏まえて、「いつがいいですか」「(日時)はどうですか」など日程の調整をするための語彙、表現	藤原 弥央	市橋 剛 大橋 麻奈未 林 光子
11	平成28年8月21日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-2	13	全体の復習・まとめ	これまで学習した構文の復習。習った構文を用いた他の参加者と会話練習や自己紹介を通じた練習	藤原 弥央	江木 洋治 川瀬 紀美 林 光子
12	(第2期) 平成28年10月2日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	19	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本にきた理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本にきた理由を伝える語彙、表現の学習	タマン 明日香	市橋 剛 宇佐美 徹弥
13	平成28年10月9日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	20	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるための、「今何をしてますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習	浅井 里美	内山 文雄 富田 清子 山下 富美子 度會 千穂
14	平成28年10月16日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	12	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るための、「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」の問いに答えられる学習	藤原 弥央	川瀬 紀美 林 光子 福田 明弥
15	平成28年10月23日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 自治会室	15	12~14回の復習 (第2期の1~3回)	12~14回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、自分の名前や職業、趣味など、自己紹介の表現をできるようにする学習	武山 量昭	市橋 剛 富田 清子 山下 富美子
16	平成28年10月30日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	13	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は〇人です」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習	藤原 弥央	内山 文雄 福田 明弥 度會 千穂
17	平成28年11月6日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	10	家族の性格を伝える	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習	藤原 弥央	内山 文雄 林 光子 度會 千穂
18	平成28年11月13日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	13	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「(記念日)に(人)に○○をもらいました」「あげました」など授受表現の学習	藤原 弥央	市橋 剛 大野 久美子 村北 嘉子
19	平成28年11月20日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 創作実習室3	14	16~18回の復習 (第2期の5~7回)	16~18回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、家族の職業や性格など、家族を紹介する表現をできるようにする学習	渡邊 麻紀	大橋 麻奈未 福田 明弥 山下 富美子
20	平成28年11月27日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	13	母国について伝える ①	位置、方角、「日本の〇倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	佐藤 幹樹子	林 光子 福田 明弥 村北 嘉子
21	平成28年12月4日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	12	母国について伝える ②	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	藤原 弥央	市橋 剛 川瀬 紀美 富田 清子

22	平成28年12月11日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	14	母国について伝える ③	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	藤原 弥央	市橋 剛 内山 文雄 村北 嘉子
23	平成28年12月18日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	9	20~22回の復習 (第2期の9~11回)	20~22回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、母国の名物や食べ物など、国や場所を説明する表現を使えるようにする学習	岩本 宏明	江木 洋治 粥川 美重子 富田 清子
24	平成29年1月8日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	10	友人関係を作る (誘う) ①	人を誘ったり、誘いに応じたりすることができるよう「今度、一緒に○○ませんか」やそれに答える会話の練習	浅井 里美	大橋 麻奈未 林 光子
25	平成29年1月15日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	3	友人関係を作る (誘いに応じる) ②	前回の勧誘表現を踏まえて、「いつがいいですか」「(日時)はどうですか」など日程の調整をするための語彙、表現	藤原 弥央	粥川 美重子 度會 千穂
26	平成29年1月22日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	14	全体の復習・まとめ	これまで学習した構文の復習。習った構文を用いた他の参加者と会話練習や他己紹介を通じた練習	藤原 弥央	市橋 剛 江木 洋治 川瀬 紀美

(1) 特徴的な活動風景 (2~3回分)

○取組事例①

[第14回(第2期の3回目):平成28年10月16日]

- ①はじめにアイスブレイクとして前回の復習。自己紹介をし、「今、何をしていますか」「今、会社で働いています」などの受け答えをした。
- ②今回の構文の「休みは何曜日ですか」「休みは○曜日です」「休みの日は～をしています。」を提示。必要に応じてその都度語彙の確認。アシスタントとの会話を見本として見せ、その後学習者が練習を行った。
- ③時間の表現を練習。○時○分と午前午後などの語彙を確認した。
- ④2つ目の構文の「休みの日は～時から～をしています」を学び、時間を表現も合わせて使えるようにした。
- ⑤室内を歩きまわり、他の学習者やアシスタントと会話をした。相槌や「そうですか」も確認。最後に全員の前で会話を実演する機会を持った。
- ⑥語彙の復習、「ふりかえりシート」の記入を行った。

グループでアシスタントが指導する様子



他の人と会話練習をする様子



○取組事例②

[第15回(第2期の4回目):平成28年10月23日]

- ①3回ごとに実施する復習回。第1回から第3回で学んだ表現を合わせて振り返り定着を図る。はじめにスライドで表現・語彙の復習をした。
- ②雰囲気作りも兼ねて、国旗を見せて国名を答えるクイズを行った。
- ③第1回の復習(「名前」「出身国」「今の居住地」「来日理由」を話す)を行い、他の学習者やアシスタントと会話をした。
- ④第2回の復習(「身分(会社員、学生など)」「近況(仕事が忙しいです。など)」を話す)を行い、近況説明に使う形容詞は「おもしろい」「いそがしい」「たいへん」「かんたん」「むずかしい」の形容詞の中から三つ選択して文作した。アシスタントが添削などのサポートを行った。
- ⑤第3回の復習(「休みがいつか説明する」「休みの過ごし方を話す」)を行い、ペア、グループによる会話練習をした。

スライド資料による指導者の説明



学習した表現を他の参加者の前で話す様子



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標を達成できるようなカリキュラムを作成し、また実施方法においても復習回を取り入れるなど、基礎日本語が習得できるようにした。
- ・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した(別紙アンケート参照)。
- ・アンケート[問5]「教室に来る前よりも日本語で話せるようになりましたか」に対し、アンケートに回答した学習者の全員が、「話せるようになった」または「話せないがわかることが多くなった」と回答している。このことから、目標の日本語習得ができたと考えられる。
- ・アンケート[問10]「このプログラムを受ける前よりも、日本で生活ができるようになったと思いますか」に対し、8割以上の学習者が「できるようになったと思う」または「少しでもできるようになったと思う」と答えていることから、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができた機会になったと考える。
- ・運営委員会委員に教室の見学(視察)をしてもらったが、学習者がとてもいきいきと学習していたとの評価があった。

(3) 今後の改善点について

・明確な基準をもって受講資格を決めているわけではないため日本語レベルの差が大きく、途中で学習をやめたり、逆に簡単すぎて飽きてしまったりした学習者がいた。受講者全体の学習意欲の低下につながる可能性があるため、申し込み時の日本語レベルの確認の方法(学習内容のより丁寧な説明)や途中でやめてしまう学習者へのフォローについて、よりよい方法を検討する。簡単すぎる学習者には、アシスタントに近い役割を担ってもらい、居場所作りができない検討し実施できるよう努めていく。

・アンケート[問6]「この教室は、日本人と話す練習をするために役に立ちましたか」に対し、8割弱が「とても役に立った」または「役に立った」と答えた。一方、「あまり役に立たなかった」または「役に立たなかった」と答えた学習者もいた。教室活動やカリキュラムを検討する必要がある。

・指導者や指導者アシスタント、事務局がコースの途中で、よりよい教室運営のための教室活動の見直しができるように、学習者のフィードバックを得るなど機会や方法を検討する。

・各期の後半になると、休みがちになる学習者がいた。学習者のモチベーションを保つための工夫(修了証の作成など)を検討していく。また、学習者が自分自身の学習の足跡が見えるよう、最終回到学習した内容を使って日本語のスピーチをする機会を設けることも検討していく。

日本語教育の実施【活動の名称：外国人市民のための日本語教室「会話コース2016」】									
目的・目標	地域で暮らす中で必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指し、生活に必要な情報を得るために尋ねることや、必要な状況や要求を伝えることができるようにする。								
対象	日本語での意思疎通がほとんどできないレベルから、簡単な日本語を使い会話ができるレベルの外国人								
取組の内容	・生活する上で、生命に関わる大切な場面「医療機関の受診」、「110番・119番に電話」の2つの場面で必要になる会話表現、語彙を学習すると共に、生活情報を学習した。 ・講師がスライドによる視覚的資料を使った一斉授業で、下記のテーマの会話学習を行った。 1回～3回：病院受診時の会話 4回：警察への電話（110番通報） 5回：消防への電話（119番通報） <指導者アシスタント（補助者）の参加> ・各回3名程度の日本語指導ボランティア（日本語指導ボランティア講座受講者）がアシスタントとして参加して、グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェックなど指導者のサポートをした（指導者アシスタントは無償ボランティア）。 <託児の実施> ・基礎コースと同様、託児室を開設。利用者は3人。 <コーディネーターの設置> ・基礎コースと同様、日本語教育のコーディネーターを設置した。教室のカリキュラム作成、教材の選定・作成、講師の調整およびカリキュラムの伝達、各回の引継ぎ連絡等をした。								
実施期間	第1期：平成28年8月28日（日）～平成28年9月25日（日） [全5回] 第2期：平成29年1月29日（日）～平成29年2月26日（日） [全5回]					曜日・時間帯	日曜日（9:30～11:30）		
開催回数	全20時間（1回2時間×5回×2期）					開催場所	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室ほか		
参加者	総数54人 （日本語学習者 30人（1期：13人、2期17人）、 指導者 4人、支援者（アシスタント） 16人、 警察署・消防署職員 4人） （参考） 学習者の平均参加者数：1期：9.2人、2期：9.2人					使用した教材・リソース	日本語教育のコーディネーター作成プリント、スライド資料		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2人（1期：1人、2期：1人）	1人（1期：0人、2期：1人）	15人（1期：9人、2期：6人）	6人（1期：1人、2期：5人）	0人	0人	0人	1人（1期：1人、2期：0人）	3人（1期：0人、2期：3人）
マレーシア（1人（1期：0人、2期：1人））、オーストラリア（1人（1期：1人、2期：0人））									
カリキュラム案活用	・「Ⅰ 健康・安全に暮らす」の医療機関の受診と110番および119番への連絡のしかたの箇所を活用した。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	（第1期） 平成28年8月28日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	10	病院 （隣人に様態を伝えて 助言を求めることができる）	身体の部位、診療科の種類、病状などの言葉を学習し、「熱があるんですが、どこの病院がいいですか」や「すみません、〇〇してください」などが伝えられる学習	佐藤 幹樹子	市橋 剛 大橋 節子 山下 富美子	
2	平成28年9月4日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	10	病院 （電話して予約をとることができる）	予約の時間に関する言葉（曜日、時間）、「予約したいです」など、予約時に必要な言葉、会話の学習	柏谷 涼介	大橋 麻奈未 福田 明弥 度會 千穂	
3	平成28年9月11日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-1	10	病院 （初診の手続き、診察時の簡単な受け答えができる）	診察時の簡単な対応の表現や、医師の言葉がわからない時に聞き返す表現、薬の飲み方に関する言葉、会話の学習	渡邊 麻紀	市橋 剛 川瀬 紀美 米倉 由光	
4	平成28年9月18日（日） 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	9	警察への通報（110番）	犯罪に遭遇した際、警察（110番）に電話し簡単な状況説明をするための言葉、会話の学習	渡邊 麻紀 大垣警察署職員	大野 久美子 林 光子 山下 富美子	

5	平成28年9月25日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 男女共同参 画活動室	7	消防への通報 (119 番)	火事・救急時に、消防 (119番) に電話し 場所や簡単な状況を説明するための 言葉、会話の学習	佐藤 幹樹子 大垣消防署職 員	江木 洋治 福田 明弥 度會 千穂
6	(第2期) 平成29年1月29日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 男女共同参 画活動室	11	病院 (隣人に様態を伝え て助言を求めること ができる)	身体の部位、診療科の種類、病状など の言葉を学習し、「熱があるんです が、どこの病院がいいですか」や「す みません、〇〇してください」などが伝 えられる学習	藤原 弥央	市橋 剛 内山 文雄 村北 嘉子
7	平成29年2月5日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 男女共同参 画活動室	14	病院 (電話して予約をとる ことができる)	予約の時間に関する言葉 (曜日、時 間)、「予約したいです」など、予約時 に必要な言葉、会話の学習	渡邊 麻紀	粥川 美重子 林 光子 度會 千穂
8	平成29年2月12日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 男女共同参 画活動室	8	病院 (初診の手続き、診 察時の簡単な受け 答えができる)	診察時の簡単な対応の表現や、医 者の言葉がわからない時に聞き返す表 現、薬の飲み方に関する言葉、会話 の学習	藤原 弥央	今井 啓 宇佐美 徹弥 江木 洋治 粥川 美重子
9	平成29年2月19日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 男女共同参 画活動室	7	警察への通報 (110 番)	犯罪に遭遇した際、警察 (110番) に電 話し簡単な状況説明をするための言 葉、会話の学習	渡邊 麻紀 大垣警察署職 員	粥川 美重子 川瀬 紀美 林 光子
10	平成29年2月26日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 自治会室	6	消防への通報 (119 番)	火事・救急時に、消防 (119番) に電話し 場所や簡単な状況を説明するための 言葉、会話の学習	佐藤 幹樹子 大垣消防署職 員	今井 啓 粥川 美重子 村北 嘉子

(1) 特徴的な活動風景 (2~3回分)

○取組事例①

【第4回(第1期の4回目):平成28年9月18日】

学習テーマ:警察への電話 (110番通報)

- ①テーマの説明 (警察や泥棒の写真を提示し、警察に電話をかける時の会話を学ぶことを説明)。
- ②講師が、「警察」「泥棒」「110番」などの語彙や、「～んですが (状況説明)」などの表現を、スライド資料を使って説明。
- ③前述の語彙や表現を使ってグループ練習。アシスタントによる補助や練習を取り入れた。
- ④110番通報のモデル会話を示し、練習。
- ⑤実際に警察署から派遣された警察署職員に相手役になってもらい、110番通報のロールプレイを行った。

警察署職員と通報の練習



○取組事例②

【第10回(第2期の5回目):平成29年2月26日】

テーマ:消防への電話 (119番通報)

- ①テーマの説明 (救急車などの写真を提示し、消防署に電話をかける時の会話を学ぶことを説明)。
- ②講師が、「火」「燃える」「～が痛い」「住所」などの語彙や、「～から火が出ている」などの表現を、スライド資料を使って説明。
- ③前述の語彙や表現を使ってグループ練習。アシスタントによる補助や練習を取り入れた。
- ④119番通報のモデル会話を示し、練習。
- ⑤実際に消防署から派遣された消防署職員に相手役になってもらい、119番通報のロールプレイを行った。消防署職員から通報時に知っておく
とよい情報の提供 (固定電話を使う)を行った。

消防署職員と通報の練習



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標を達成できるよう、病院、110番・119番の通報で状況を伝え、必要な情報を尋ねることができるカリキュラム(別紙参照)を作成して実施した。
- ・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した (別紙アンケート参照)。
- ・アンケートの質問 [問3] 「テーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか」に対し、8割以上の学習者が「とても話せるようになった」または「少し話せるようになった」と答えた。また、アンケート [問6] 「この教室は、日本人と話す練習をするために役に立ちましたか」に対し、全員が「とても役に立った」または「役に立った」と答えた。このことから、目標の日本語習得ができたと考える。

(3) 今後の改善点について

・今年度は人命にかかわることとして病院・警察・消防に関する会話を行ったが、他の場面（災害の時、仕事を探す時など）の会話を学びたいという要望もあり、限られた回数の中でどの内容を取り扱うか、ニーズを見極める必要がある。

・教室で学習したことをその後の生活の中で使うことがないと日本語が身についていけないため、使う機会を作る仕組みを考える必要がある。

・今回は受講者アンケートを最終回に出席した人にも実施したため、受講者31人に対して12人の回答（第1期：6人、第2期6人）と回答数が少なかったため、アンケート実施方法を検討する必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語指導ボランティア講座】									
目的・目標	地域住民を対象として、外国人の日本語学習支援をサポートできる人材を養成する。サポートに必要な知識の習得を行うとともに、外国人と日常的に関わる地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す。								
対象	日本語学習支援に興味のある人、日本語指導ボランティア登録者								
取組の内容	日本語学習支援を継続する中で、日本語学習希望者に対して、支援できるボランティアが不足している状況が続いている。そのため、ボランティア人材の育成のため、サポートに必要な知識の習得ができる講座を実施した。その中で、新たに、外国人と日常的に関わる地域住民に外国人に対する意識や多文化共生の考え方に理解をしてもらうことが継続した支援に必要だと考え、多文化共生についての知識、実際の活動（支援）内容を実践的に学ぶための日本語教室の見学を加えて、次の内容で実施した。 ・大垣市外国人の現状、多文化共生とは、大垣市の取組、日本語学習支援事業について（1期、2期共に実施） ・日本語教え方の講義（1期、2期共に実施） ・日本語教室の見学（1期、2期共に実施） ・消防ワーク（2期のみ実施）								
実施期間	第1期：平成28年8月19日（金）～平成28年10月21日（金） [全8回] 第2期：平成28年12月14日（水）～平成29年2月5日（日） [全7回]				曜日・時間帯		第1期：金曜日（10：00～12：00） うち1回は日曜日（9：30～11：30） 第2期：水曜日（13：00～15：00） うち3回は日曜日（9：30～11：30） 日曜日実施回は、日本語教室の見学及び消防ワーク体験		
開催回数	全30時間（1回2時間×8回（1期）、1回2時間×7回（2期））				開催場所		大垣市スイトピアセンター 学習室3-5 ほか		
参加者	総数53人（日本語学習者0人、指導者・支援者53人） ※消防のワークは、マンツーマン方式の学習者・支援者など他15人（日本人：5人、外国人：10人）も別途参加				使用した教材・リソース		講師作成のスライド資料		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本（53人） 内訳：第1期32人（一般：16人、日本語指導ボランティア登録者：16人） 第2期21人（一般：16人、日本語指導ボランティア登録者：5人） ※消防のワークは、マンツーマン方式の学習者・支援者など他15人（日本人：5人、外国人：10人（ブラジル：4、ベトナム：3、中国：1、マレーシア：1、バングラデシュ：1）も別途参加								
カリキュラム案活用	Can-do-statement を通して、生活場面で使える日本語を教える方法を考えるため、カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を活用								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	（第1期） 平成28年8月19日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 学習室3-5	24	在住外国人の状況、 多文化共生について	大垣市在住外国人の現状、多文化共生に関するアンケート結果などから、日本語学習支援の必要性を考えた。日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘 （大垣市まちづくり 推進課職員）	なし	
2	平成28年8月26日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 会議室5	27	教え方実践	日本語を教えるとは？ 外国人にとって分かりやすい日本語とは？（やさしい日本語）について考えた。	柏谷 涼介 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	
3	平成28年9月2日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 学習室3-5	26	教え方実践	言葉や文法を説明するには、どのように説明したらよいのかについて考えた。また、実生活で使える日本語を教えるために、can-do-statement（学習者何ができるか）について考え、そのためにはどのように教えたらよいのかを考えた。	柏谷 涼介 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	
4	平成28年9月9日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 学習室3-5	23	教え方実践	漢字の教え方について考えた。日本語教室のカリキュラム（次回が日本語教室見学）、教室活動、アシスタントの役割を事前に説明した。	西谷 洋平 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	
5	平成28年9月11日（日） 9：30～11：30	2	大垣市スイトピアセンター 学習室3-1	21	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、実際の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	
6	平成28年9月16日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 学習室3-5	25	教え方実践	聞く、話す、読む、書く、それぞれの日本語力をどのように学習するとよいのかを考えた。	西谷 洋平 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	
7	平成28年10月14日（金） 10：00～12：00	2	大垣市スイトピアセンター 自治会室	19	教え方実践	授業活動のために、どのような事前準備が必要かについて考えた。	白木 寛和 （ホツマインターナ ショナルスクール）	なし	

8	平成28年10月21日(金) 10:00～12:00	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-1	20	教え方実践	学習者が第2言語の日本語を習得していき過程を知り、支援者の注意点について考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
9	(第2期) 平成28年12月14日(水) 13:00～15:00	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-5	16	在住外国人の状況、 多文化共生について	大垣市在住外国人の現況、多文化共生に関するアンケート結果などから、日本語学習支援の必要性を考えた。日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘 (大垣市まちづくり 推進課職員)	なし
10	平成28年12月21日(水) 13:00～15:00	2	大垣市サイト ピアセンター 会議室5	16	教え方実践	日本語を教えるとは？ 外国人にとって分かりやすい日本語とは？ (やさしい日本語) について考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
11	平成29年1月15日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-5	4	教え方実践	日本語教室(基礎コース) アシスタント人材の育成のために、実際の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
12	平成29年1月18日(水) 13:00～15:00	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-5	12	教え方実践	言葉や文法を説明するには、どのように説明したらよいのかについて考えた。また、実生活で使える日本語を教えるために、can-do-statement(学習者何ができるか) について考え、そのためにはどのように教えたらよいのかを考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
13	平成29年1月25日(水) 13:00～15:00	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-1	10	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、実際の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
14	平成29年1月29日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 学習室3-5	22	教え方実践	日本語教室(会話コース) アシスタント人材の育成のために、実際の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
15	平成29年2月5日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイト ピアセンター 自治会室	8 (日本語学習者 など他15人(日 本人:5人、外国 人:10人)も参 加)	消防ワーク	消防に関する知識(119番の通報、心肺蘇生など)を身につけてもらい、その知識をどのように外国人に伝えたらよいかについて考えた。外国人と共に活動し、実際に日本語で伝え、伝わる方法、伝え方などを考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール) 大垣消防署職 員	なし

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

[第1回(第1期の1回目):平成28年8月19日、第9回(第2期の1回目):平成28年12月14日]
 内容:多文化共生について(講師:大垣市まちづくり推進課(多文化共生係)職員)
 ・大垣市に在住する外国人の人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の現状を学んだ。
 ・大垣市で実施した多文化共生に関するアンケート(外国人と日本人を対象)結果から市民の意識、外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民への日本語学習支援の必要性を考えた。
 ・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生の考え方に関する理解を深めた。



○取組事例②

[第2回(第1期の2回目):平成28年8月26日、第10回(第2期の2回目):平成28年12月21日]
 内容:日本語の教え方を考える(講師:ホツマインターナショナルスクール講師)
 ・教えるにあたってのヒント、外国人にとってわかりやすい日本語とは、どのように説明するとよいか、実際の生活場面で使える日本語の教え方など支援のために必要な知識を学んだ。
 ・日本語支援の中で外国人とコミュニケーションをとるために必要な「やさしい日本語」について学び、受講者同士で考える体験をした。

講師の講義の様子



受講者間でやさしい日本語について話し合い



○取組事例③

〔第5回（第1期の2回目）：平成29年9月11日、第11回（第2期の3回目）：平成29年1月15日、第15回（第2期の7回目）：平成29年2月15日〕
 内容：日本語教室の見学（講師：ホツマインターナショナルスクール講師）
 ・日本語教室活動のアシスタント（グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェック、講師と共に会話モデルを示す役割を担う）人材の育成のために、実際の活動の様子を見学することで、アシスタントの役割や外国人との接し方など学んだ。

日本語教室の見学（写真前方が教室受講者）



○取組事例④

〔第14回（第2期の6回目）：平成29年1月29日〕
 内容：消防ワーク（講師：ホツマインターナショナルスクール講師、大垣消防組合職員3人）
 ・現在又は将来の日本語学習支援のボランティアに消防のワーク（119番のかけ方、心肺蘇生、AEDの使い方）を通して知識を身につけてもらい、その知識をどのように伝えたらよいのかを考えた。
 ・外国人市民と共に活動する中で、普段外国人と接することのない受講者にも、日本語支援の理解を促すことが出来た。
 ・外国人とのコミュニケーション体験をし、伝える方法、伝え方などを講師と共に考えた。

消防署職員の説明の様子



外国人と共に消防ワーク



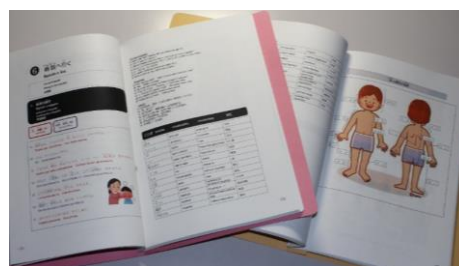
(2) 目標の達成状況・成果

・1期受講者でボランティアをしていない16人中4人、2期は16人中2人が、講座受講後ボランティア登録をし、すでに日本語教室指導者アシスタント又は、マンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして活動している。割合としては少ないが、講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、関わる結果につながった。
 ・アンケート〔問4〕「外国人の日本語学習支援をするにあたり、よい内容でしたか」に対し、8割以上が「とてもよい」または「よい」と答えた。受講者が日本語学習支援に必要な知識の習得ができたと考える。
 ・ボランティアをしたことのない受講者のうち半数近くは、日本語学習支援の存在を知らない市民であったが（アンケート〔問1-2〕）、受講後には「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことから、一定の成果を上げることができたと考え。

(3) 今後の改善点について

・ボランティアをしたことのない受講者のうち、9割以上が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたいと思う」と答えただけで、実際の活動に繋がった人が2割弱と開きがあった。活動に繋がらない理由を把握し、活動のあり方を含め検討していく。
 ・アンケート結果から、ボランティア活動への不安の声があった。不安感を埋められるような内容や活動を入れ、活動への参加の敷居を低くしていく必要がある。
 ・日本語教室の見学だけにとどまらず、実際に参加してみることもできるのではないかという意見もあり、今後改善できることは取り入れていく。

日本語教育のための学習教材の作成 [教材の名称 : 大垣で暮らす外国人 市民のためのにほんご教材作成]			
目的・目標	日常生活に必要な語彙、表現を学び地域の人とコミュニケーションを取り、つながりが広げられるよう日本語を学ぶと共に、地域の生活に必要な行政情報等も得られる教材を作成し、継続的な日本語学習を行い、外国人が地域で安心して、且つ自律的な生活を送り、地域社会へ積極的に参加できるようにするための教材を作成する。		
対象	日本語初級レベル以上の外国人の学習を想定した教材		
教材の内容	・A4サイズ、総ページ数170ページで、会話表現・語彙、生活情報や行政情報を入れた教材。 ・標準的なカリキュラム案の「生活上の行為の事例の整理」のうち、基本的な生活基盤を形成するため、又は安全にかかわり緊急性があるため情報として知っておく必要があると考えられている項目を中心とした教材で、大垣地域で暮らす外国人の生活場面や行為での会話表現・語彙が学べる教材。 ・日本語を学習しながら、生活情報や行政情報も得られるように、会話に工夫をした(例えば、ごみ出しの場面で、ごみシールを貼らないといけないことを伝える会話とした)。また、情報やルールなどの項目「知っているといひです！」を各課に入れ、関係する知識や情報、どの機関に問合せればよいかを記載した。 ・地域に溶け込んで安心して暮らせるために活用できる教材となるよう、近所の人に尋ねる場面を多く入れた。また、日常会話で頻出する会話表現を学べるよう会話に工夫をし、会話に出てくる表現を使った練習問題の項目「はなしましょう！」を入れ、自分で(教室で)練習できるように工夫した。学習者のレベルによるが、文法も習得したい人の参考となるよう、動詞などの活用表を入れ、日本語教室を離れても学習できるように工夫した。 ・日本語文字には、ひらがなのルビ、ローマ字を付け、文字が読めない人でも使えるようにした。また、会話及び語彙には、3か国語(ポルトガル語、英語、中国語)の翻訳を入れた。 ・文字に加え関係するイラストを入れ、やわらかい雰囲気教材とし、日本語初級レベルの学習者が難しいものと感じないようにした。 ○教材の構成 [本編] ①自己紹介をする、②市役所/国際交流協会で、③買い物をする、④乗り物に乗る、⑤学校へ通う、⑥病院へ行く、⑦110番・119番に電話する、⑧災害に備える、⑨交通ルールを知る、⑩仕事をする、⑪ごみを出す、⑫社会の一員として活動する [資料編] 質問のこたえ、数字・時間・カレンダー・動詞の活用など		
実施期間	平成28年5月19日(金)～平成29年2月28日(火)	成果物のリンク先	当協会ウェブサイト
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回2時間×30回＝60時間分	教材の頁数	教材のページ数:170ページ (本編:158ページ、資料編:12ページ)
カリキュラム案活用	・「標準的なカリキュラム案(文化審議会国語分科会)」の「生活上の行為の事例の整理」を参考に、基本的な生活基盤の形成、安全にかかわり緊急性が高い情報の項目を中心に教材で扱う場面を選定し、この教材用のカリキュラムを作成した。 ・「標準的なカリキュラム案」の「やり取りの例」や「文法」、「語彙」を参考にした。		
教材の活用方法	平成28年度は教材の作成に取り組んだため、実際の日本語教育での活用はしていない。		
今後の活用の予定	①平成29年度実施予定の日本語教育事業の各取組において使用する。 ・日本語教室(各コース)で、学習教材として使用し授業を行う。 ・日本語指導ボランティア講座で、この教材を使用して教える方法を学ぶ。 ・マンツーマン方式で行っている学習支援で使用する。 ・ウェブサイトに掲載することで、日本語教室受講者だけでなく、外国人市民が自由にダウンロードして使用できるようにする。 ②平成29年度の日本語教育事業の各取組で使用する中で、点検を行い、例文、語彙などを必要に応じてより良いものに改訂していく。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばし、生活に必要な情報等を得て、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設けることで、地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎を築く。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人市民に寄り添うことで、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・受講者アンケートからわかるように、日本語教室の実施により、学習前と比較し外国人の日本語能力が向上し、日本人と会話をするために役立つことが分かる。それにより、今後地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎ができたと思う。
・日本語指導ボランティア講座の実施により、受講後にボランティアとしての活動に繋がっていない人も含め、地域の外国人の状況を知ってもらうことができた。
・まだ十分でないところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと思う。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・当地域の外国人の学習内容のニーズ把握のために、アンケートを実施した。アンケート実施時には、翻訳版の存在を知らなかったため、当協会職員で対応できたポルトガル語、中国語、英語以外の母語の人には、やさしい日本語や日本語で説明をしたが、今後実施する際には、カリキュラム案の翻訳版を活用していきたい。
・アンケート結果及び、「標準的なカリキュラム案」を参考に、日本語教室と日本語教材のカリキュラムを作成した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

①行政機関との連携
・警察署、消防署職員による通報の仕方の講座実施及び情報提供をした（日本語教室）。
・教材の作成にあたり、大垣市役所（子育て、教育委員会、防災、ゴミ関係、自治会の各課）、警察署、消防署へ取材し、情報収集をした。
②日本語教育機関（市内の大学、地域の日本語学校）
・地域の日本語学校から日本語教室への講師派遣をしてもらい連携をした。
・専門的知識を持つ大学の日本語講師が教材を執筆した。
③運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者（大垣市職員、日本語教育機関（市内の大学、地域の日本語学校）、公立学校の日本語教室講師、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員）に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力できた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者募集にあたっては、次のように周知・広報した。
[日本語教室]
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌（ポルトガル語版）、ちらし（日本語・ポルトガル語・中国語・英語）配布（配布先：市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室）
[日本語指導ボランティア講座]
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌、ちらし配布（配布先：市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、短期大学）

(6) 改善点、今後の課題について

①日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。
②日本語教材の作成について
・当協会独自に作成した教材を日本語教育事業の各取組で使用し、内容を点検するとともに、他の活用方法の検討を継続していく。
③日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたるため、今後より一層の連携を図っていく。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように各関係機関との連携の見直しをしていながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法を含め検討していく。

(7) その他参考資料

・日本語教室（基礎コース、会話コース）カリキュラム
・アンケート（日本語教室（基礎コース）、日本語教室（会話コース）、日本語指導ボランティア講座）

外国人市民のための日本語教室 「基礎コース2016」 カリキュラム

回	大きいトピック	・小さいトピック ・ Can-do statements	●問かけの文■言語項目（文法）
1	自分	・自己紹介 「初めて会った人に自分の基本的情報と、なぜ日本に来たのかを伝える事ができる」	■私は〈名前〉です。 （●お名前は） ■〈国名〉から来ました。 （●国はどこですか） ■〈住所〉に住んでいます。 （●どこに住んでいますか） ■〈理由の文〉。それで日本に来ました。 （●どうして日本に来ましたか）
2		・会社/学校/職業など 「初めて会った人に自分の今の職業、立場などを伝える事ができる」	■今、〈会社/学校〉で、～ています。 （●今、何をしていますか） ※て形は「働いています」と「勉強しています」のみ。意味は理解させ、他の動詞では希望がなければ練習しなくてもいい ■〈仕事/学校〉は、〈形容詞〉です。 （●〈仕事/学校〉は、どうですか）
3		・休日/趣味 「趣味や休みの日によくすることを伝え、友人関係のきっかけを作る事ができる」	■休みは○曜日です。 ■休みの日はよく〈趣味〉をしています。 ■休みの日はよく〈場所/施設〉へ行きます。 ■○時から～ています。 （●休みは何曜日ですか） （●休みの日は何をしていますか）
4		1～3の復習	
5	家族	・自分の家族構成と簡単な紹介 「自分の家族についての基本的な情報を伝える事ができる」	■〈家族〉と〈家族〉がいます。 ■〈妻/夫〉と二人です。 （●ご家族は？） ■結婚しています。 （●ご結婚は？） ■子どもが○人います。 ■〈家族名〉は○歳です。 ■〈子ども〉は今、〈教育機関〉に行っています。 （●お子さんは）
6		・家族の性格 「自分の家族の人となりについて簡単に話事ができる」	■〈人〉は〈性格〉です。 ■〈人〉は、～が好きです/嫌いです。 ■〈人〉は、～が上手です/下手です。 （●〈家族名〉はどんな人ですか）

外国人市民のための日本語教室 「基礎コース2016」 カリキュラム

回	大きいトピック	・小さいトピック ・ Can-do statements	●問かけの文 ■言語項目（文法）
7	家族	・ 記念日/プレゼント/思い出 「家族との記念日や誕生日に何をあげたりもらったりしたかを伝える事ができる」	■誕生日は○日です。 ■〈日時・日付〉に、～ました。（生まれました、結婚しました等） ■〈記念日〉に〈人〉に〈プレゼント〉をもらいました。 ■〈記念日〉に〈人〉に〈プレゼント〉をあげました。 (●誕生日はいつですか) (●何をもらいましたか) (●何をあげましたか)
8		5～7の復習	
9	母国	・ 母国について① 「自分の国についての簡単な情報を伝え、相手にイメージしてもらうことができる」	■～は～の〈位置/方角〉にあります。 ■日本の〈○倍/○分の○〉ぐらいの大きさです。 ■人口は○人ぐらいです。 (●〈国名〉はどこにありますか) (●日本と比べてどうですか)
10		・ 母国について② 「自分の国の特徴について簡単に伝えることができる」	■〈国名〉は〈形容詞〉です。 ■～が有名です。 ■〈国名〉は～が〈形容詞〉国です。 (●〈国名〉はどんな国ですか) (●〈国名〉は何が有名ですか)
11		・ 母国について③ 「自分の国の食文化について簡単に伝える事ができる」	■〈国名〉では、～をよく食べます。 (●〈国名〉では、何をよく食べますか) ■一番有名な料理は〈料理名〉です。これは～と～(～と)の料理です。 (●どんな料理が有名ですか)
12		9～11の復習	
13	関係を作る	友人関係を作る① 「人を誘ったり、誘いに応じたりすることができる」	・ 第3回の項目の復習 ■趣味は～です。 (●趣味は何ですか) ■今度一緒に～ませんか。 ■ええ、もちろん。/ええ、～ましょう (この回は今までと違い、■と●が一対一対応ではない)
14		友人関係を作る② 「人を誘ったり、誘いに応じたりすることができる。日時の調整ができる。」	・ 第13回の復習 ■いつがいいですか。 ■〈日時〉がいいです。/(日時)はどうですか。 ■どこで会いますか。 ■～で会いましょう。/(場所はどうですか) (この回は今までと違い、■と●が一対一対応ではない)
15	まとめ	全体の復習・まとめ	・ 全体の復習を行い、可能なら今までの項目をつなげて、簡単なスピーチをする。

外国人市民のための日本語教室 「会話コース2016」 カリキュラム

回	大きい トピック	・小さいトピック ・ Can-do statements	語彙 文法
1	健康 ・ 地域	・ 隣人に様態を伝えて助言を求めることができる。	身体の部位、診療科の種類、病状などの言葉 (・ 近くに住んでいる〇〇と言います) ・ ~んですが(状況説明) + どの病院がいいですか。 ・ すみませんが、~てください。
2	健康 ・ 病院	・ 病院に電話して、予約を取ることができる。	予約の時間に関することば(曜日、時間) ・ 予約したいです。初めてです。
3		・ 病院で初診の手続きをすることができる。 ・ 診察時に簡単な応答をすることができる。 ・ 医者言葉が分からない時に聞き返すことができる。 ・ 表を見ながら薬の飲み方を理解することができる。	過去を表す語彙(昨日/一昨日/先週など)、多言語医療問診票内の言葉、薬の飲み方に関する語彙(食前/食間/食後など) ・ すみません、予約した〇〇です。 ・ すみません、もう一度お願いします。 ・ 〇〇 [↑] (上昇調での聞き返し) ・ 〇〇って何ですか。
4	安全 ・ 電話	・ 犯罪の場面に遭遇した時、声を上げて周りに知らせたり、助けを求めることができる。 ・ 犯罪の場合に適切な機関に電話をかけ、簡単な状況説明をすることができる。	助けて!/泥棒!、110番、警察、泥棒/ひったくり/ストーカー、大垣警察署の電話番号→携帯に入れる(0584-78-0110) ・ ~んですが... 例 スーパーで自転車を盗まれたんですが... 今、ひったくりにあったんですが... ちょっと、ストーカーのことで相談したいんですが...
5		・ 火事/救急の場合、消防署に連絡をすることができる。 ・ 緊急の時のカードを作成し、常に身につける。 第1回~4回の内容の復習 ・ 岐阜市で発行されている外国人用のガイドブックなどがあれば、各国のものを受講生に配布。	火事だ!、119番、消防署、火事/救急、~から火が出ている/~が燃えている、既習の病気の表現、名前のカタカナ読み発音

日本語教室 受講者アンケート集計結果（基礎コース）

回収数：第1期14人（参加者26人）

第2期 5人（参加者32人）

<あなたについて教えてください>

国はどこですか？

	第1期	第2期
ブラジル	4人	3人
マレーシア	2人	1人
韓国	0人	1人
ベトナム	4人	0人
フィリピン	2人	0人
中国	1人	0人
ペルー	1人	0人
計	14人	5人

なんさいですか？

	第1期	第2期
10歳代	0人	1人
20歳代	5人	0人
30歳代	8人	4人
無回答	1人	0人

男ですか？女ですか？

	第1期	第2期
男	8人	3人
女	5人	2人
無回答	1人	0人

どうして日本に来ましたか？

	第1期	第2期
家族が日本で暮らすため	1人	2人
安心して暮らしたかったから	0人	2人
働くため	10人	1人
研修・実習のため	1人	0人
結婚したため	1人	0人
無回答	1人	0人

日本にどのくらいいますか？いつ来ましたか？

	第1期	第2期
5年以上	1人	1人
3年以上5年未満	2人	0人
1年以上3年未満	2人	3人
1年未満	9人	1人

日本にどのくらいいますか？いつまでいますか？

	第1期	第2期
3年以内に帰国	6人	0人
いつかは帰国予定（5年後）	2人	2人
いつかは帰国予定（時期は未定）	2人	0人
ずっと日本で暮らす予定	6人	3人

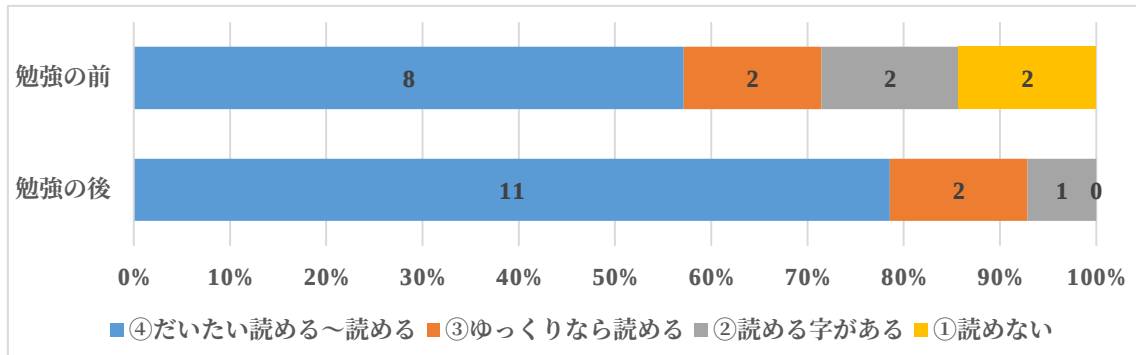
<日本語教室について教えてください>

【問1】日本語教室にどうしてきましたか？（一部複数回答あり）

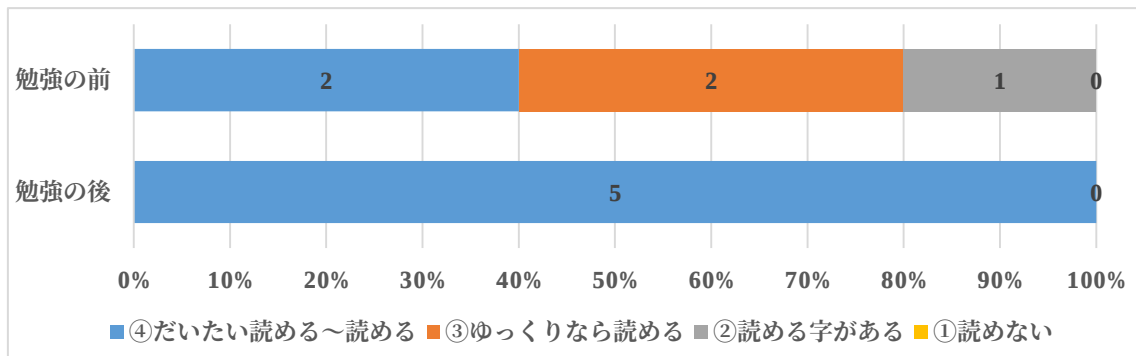
	第1期	第2期
日常生活の利便性向上	3人	3人
家族のため	0人	1人
とにかく日本語の勉強がしたかった	0人	1人
仕事のため	11人	0人
学校に行くため	1人	0人
無回答	1人	0人

【問2】 ひらがなを勉強しましたが、どれくらい読めるようになりましたか？
①～④の中から選んでください。

第1期

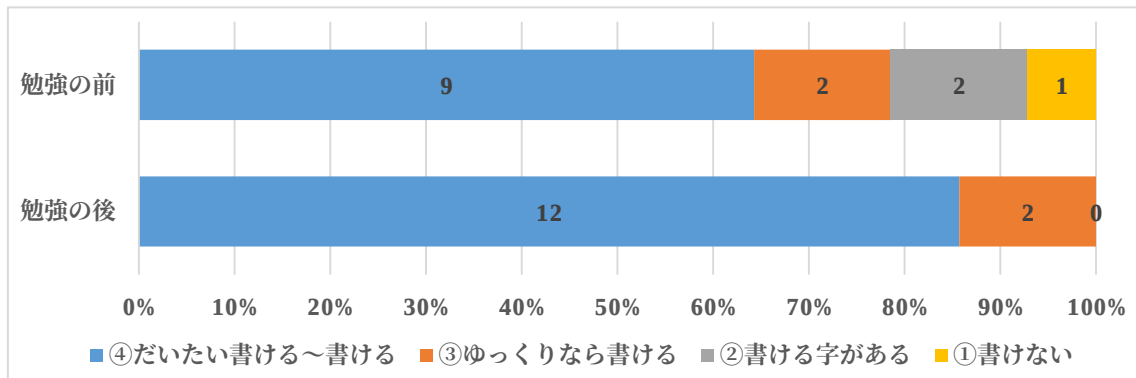


第2期

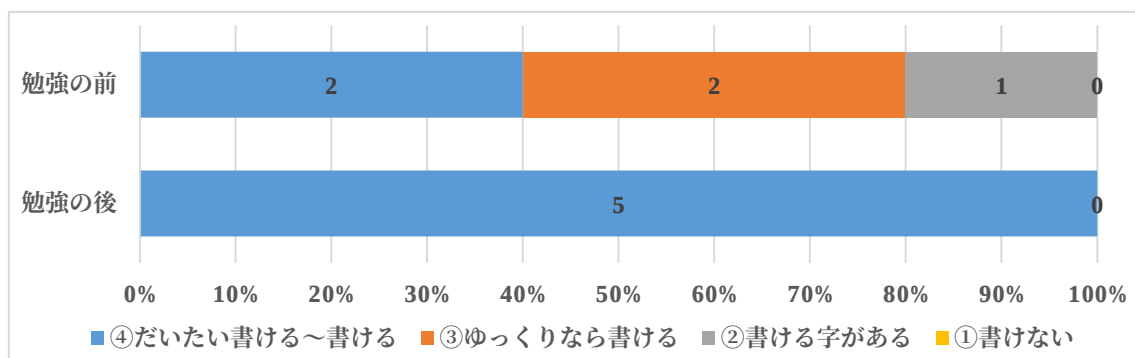


【問3】 ひらがなを勉強しましたが、どれくらい書けるようになりましたか？
①～④の中から選んでください。

第1期

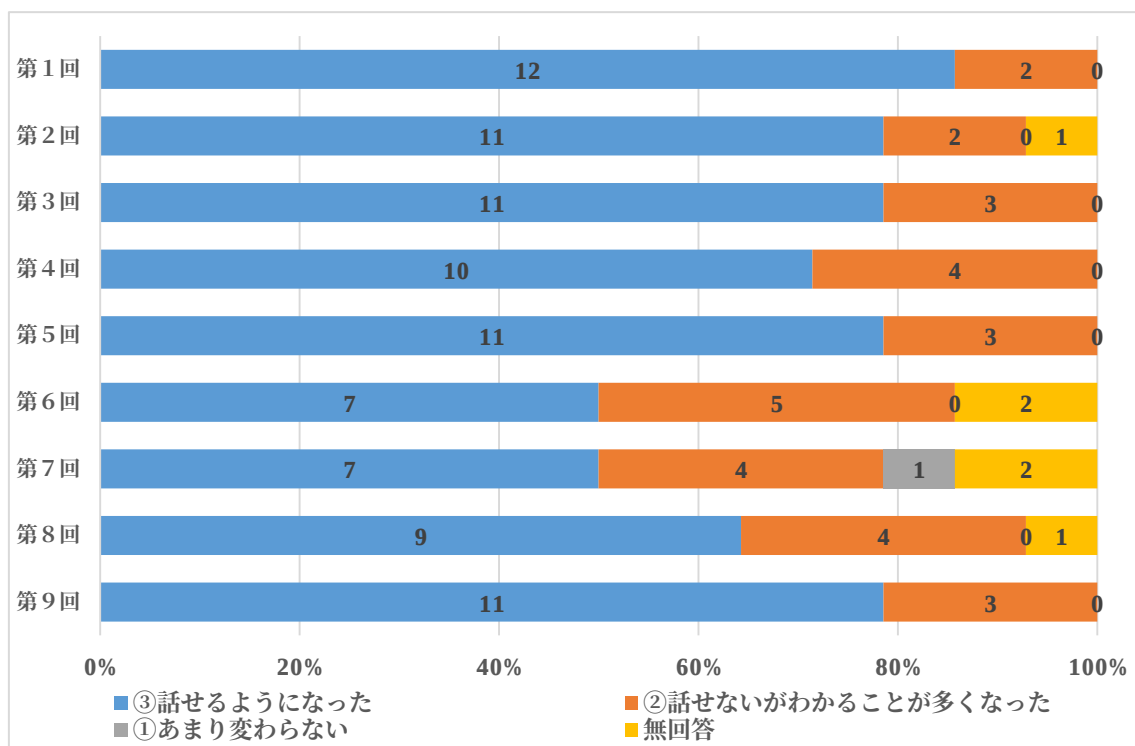


第2期

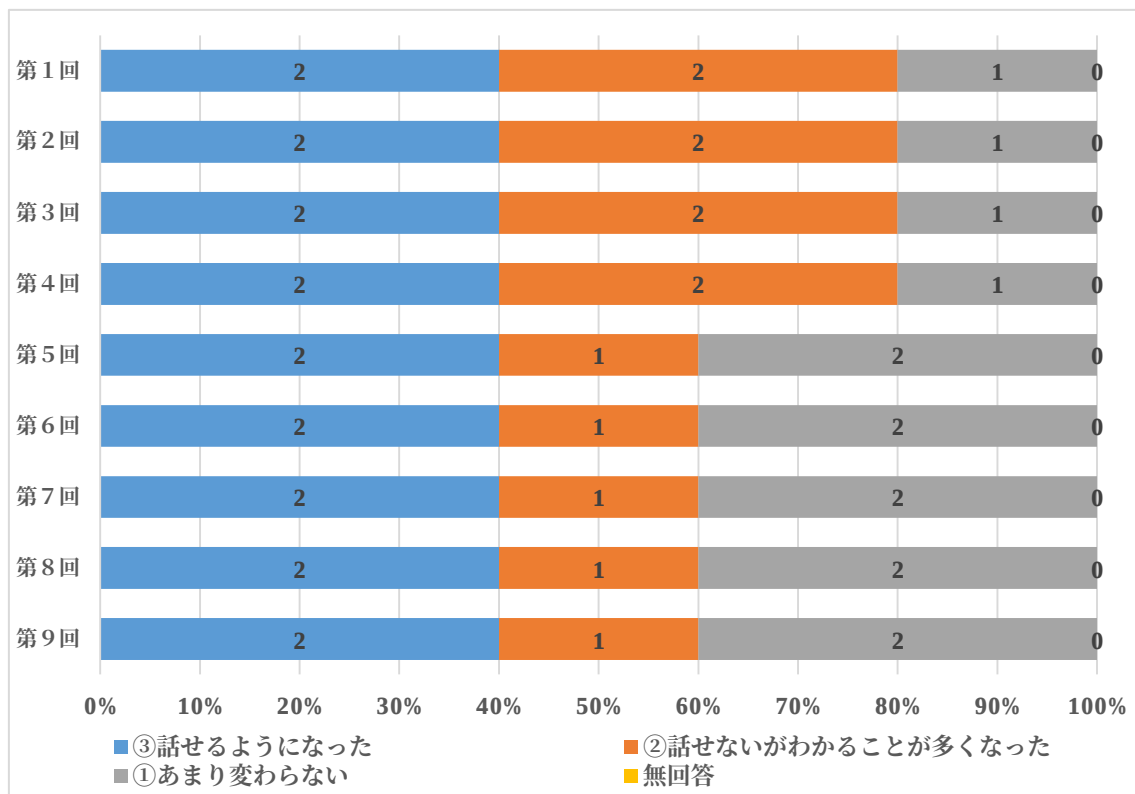


【問4】「ふりかえりシート」の言葉を使って話せるようになりましたか？①～③の中から選んでください。

第1期

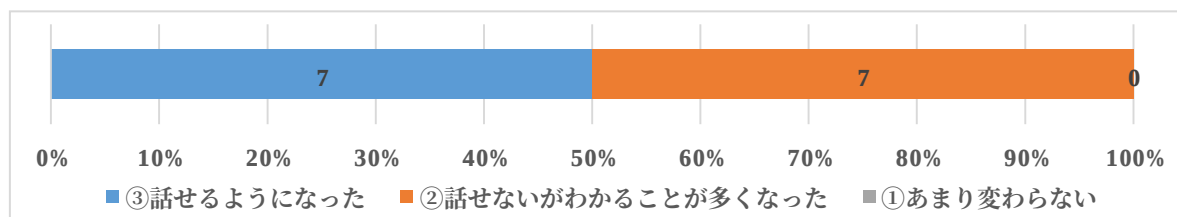


第2期

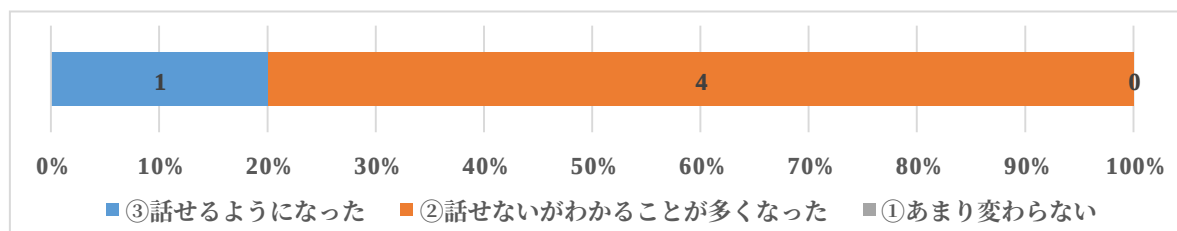


【問5】教室に来る前よりも日本語で話せるようになりましたか？

第1期

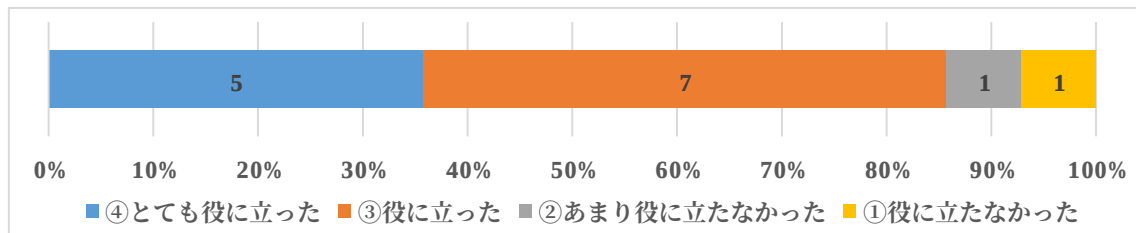


第2期

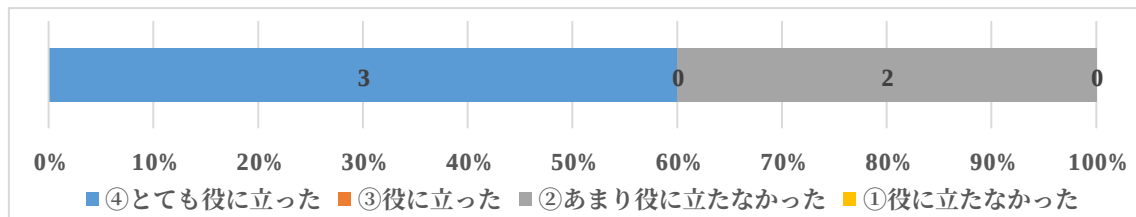


【問6】この教室は、日本人と話す練習をするために役に立ちましたか？

第1期



第2期



【問6－2】（問6で②①と答えた人だけ）どうしてそう思いますか？教えてください。

<第1期>

- ・病院で使う言葉を勉強したい。

※②①を選んだ人と回答した人は別。②を選んだ人は無回答。

<第2期>

- ・日常生活で日本語を使って話をする人がいないから。
- ・何をしたらよいかわからないことがあったから。

【問7】教室で覚えて、使っている言葉はありますか？

<第1期>

- ・「おはようございます」「はは」「ちち」
- ・自己紹介、趣味、しりとり遊び

<第2期>

- ・東西南北
- ・「ひにち」「かいもの」
- ・「あつい」「あたたかい」「さむい」「はたち」「わからない」など
- ・「家族」「母」「父」など

【問8】日本語じゃなくてよいので、思ったことを自由に書いてください。

＜第1期＞

- ・たのしかった。せんせいはやさしいです。
- ・まあまあでした。(訳)
- ・もっと長く教室を続けてほしいです。(訳)
- ・先生は熱心な人でした。親切な人でした。本当に楽しかったです。
- ・先生たちは熱心で熱心な人でした。みんな面白い人でした。このクラスをならいたい(続けたい?)です。
- ・楽しかった。先生が親切です。
- ・全部わかりました。(訳)

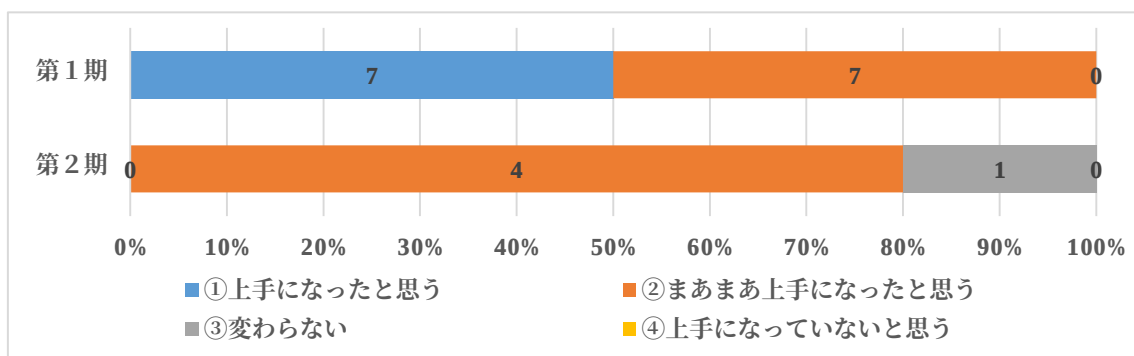
＜第2期＞

- ・いろいろ勉強しました。じょうずになりました。はなすこともだいたいできましたので、もっとがんばりたいです。
- ・先生たちがとてもよかったです。授業もとっても楽しかったです。課題は、この先、家で継続して勉強できるようにすることです。家や家族や仕事などのために勉強がどうしても後回しになってしまい困っています。(訳)
- ・ローマ字でよいので、ルビが欲しかった。少しでも良いからポルトガル語およびローマ字表記があればもう少し理解できたと思う。基礎コースと聞いていたが、自分にとっては難しく感じた。(訳)

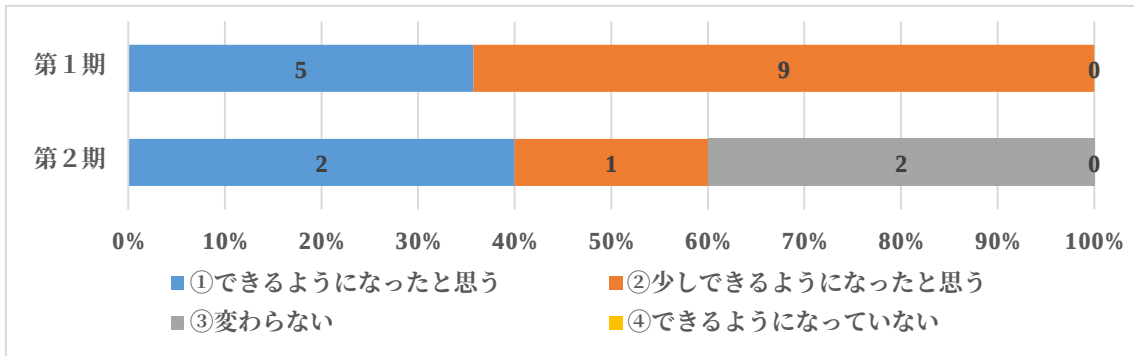
※(訳)とあるものは事務局により翻訳して掲載したもの。

＜文化庁からのアンケート＞

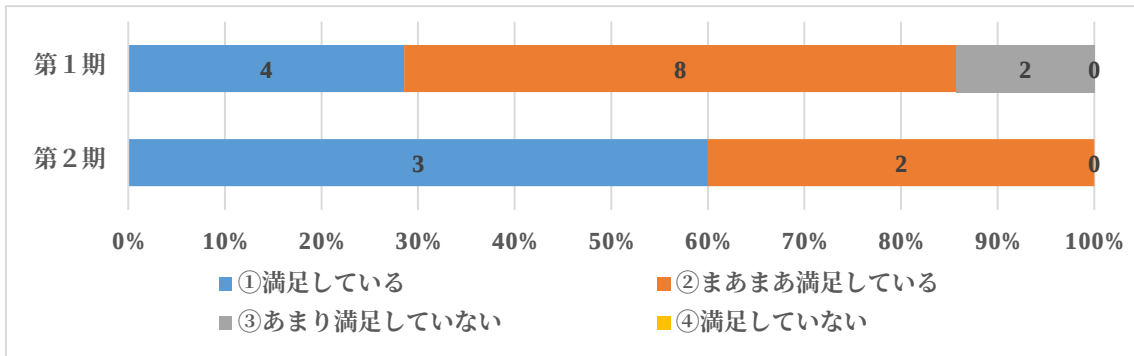
【問9】このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか。



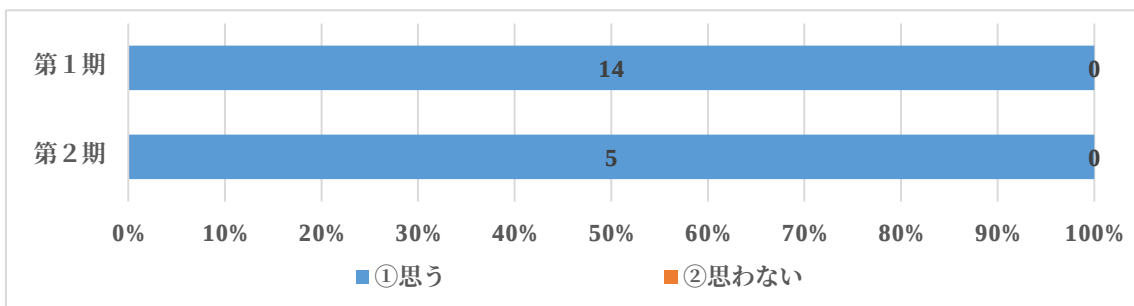
【問１０】このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか。



【問１１】このプログラムの内容に満足していますか。



【問１２】もっと日本語を勉強したいと思いますか。



日本語教室 受講者アンケート集計結果（会話コース）

回収数：第1期6人（参加者13人）

第2期6人（参加者18人）

<あなたについて教えてください>

国はどこですか？

	第1期	第2期
ベトナム	0人	3人
ブラジル	4人	2人
マレーシア	0人	1人
オーストラリア	1人	0人
中国	1人	0人
計	6人	6人

なんさいですか？

	第1期	第2期
10歳代	1人	1人
20歳代	0人	2人
30歳代	3人	2人
40歳代	2人	0人
50歳代	0人	1人

男ですか？女ですか？

	第1期	第2期
男	1人	6人
女	5人	0人

どうして日本に来ましたか？

	第1期	第2期
研修・実習のため	0人	3人
働くため	3人	2人
家族が日本で暮らすため	2人	1人
結婚したため	1人	0人

日本にどのくらいいますか？いつ来ましたか？

	第1期	第2期
5年以上	3人	2人
3年以上5年未満	0人	0人
1年以上3年未満	1人	1人
1年未満	2人	3人

日本にどのくらいいますか？いつまでいますか？

	第1期	第2期
3年以内に帰国	3人	0人
4年後以降に帰国	0人	1人
いつかは帰国予定（時期は未定）	1人	2人
ずっと日本で暮らす予定	2人	3人

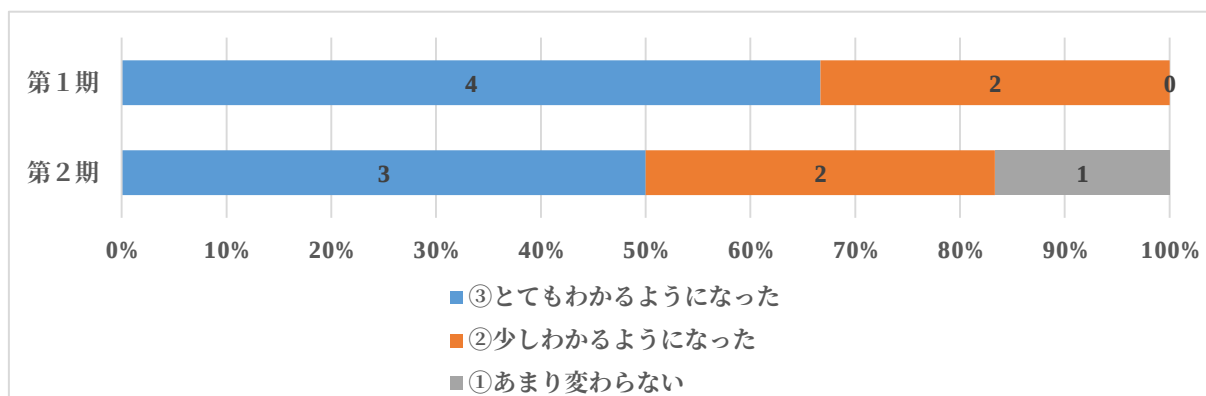
<日本語教室について教えてください>

【問1】日本語教室（会話コース）にどうしてきましたか？（一部複数回答あり）

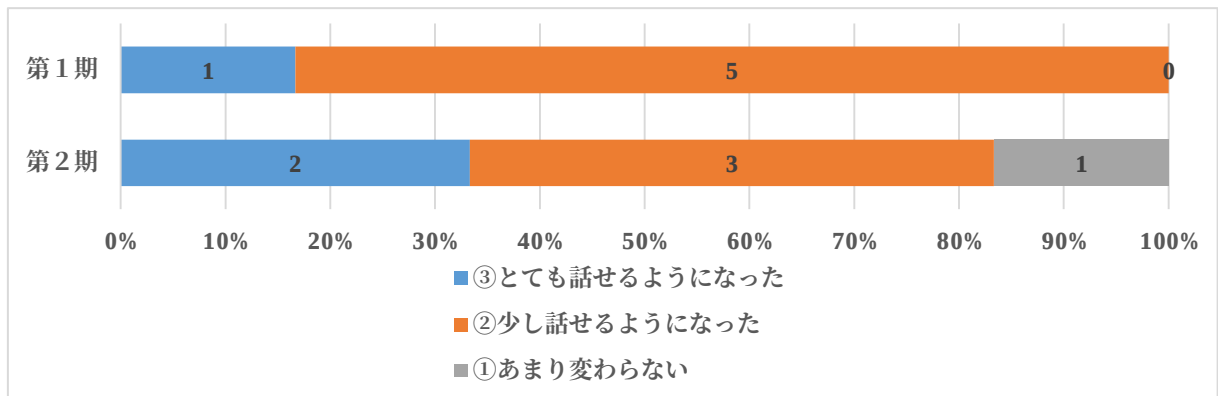
	第1期	第2期
①もっと話せるようになりたかったから	4人	5人
②会話の勉強するコースだと聞いたから	3人	1人
③勉強するテーマ（病院での会話・警察や消防との会話）について知りたかったから	4人	0人
④その他	0人	0人

<日本語教室に参加して、どうだったか教えてください>

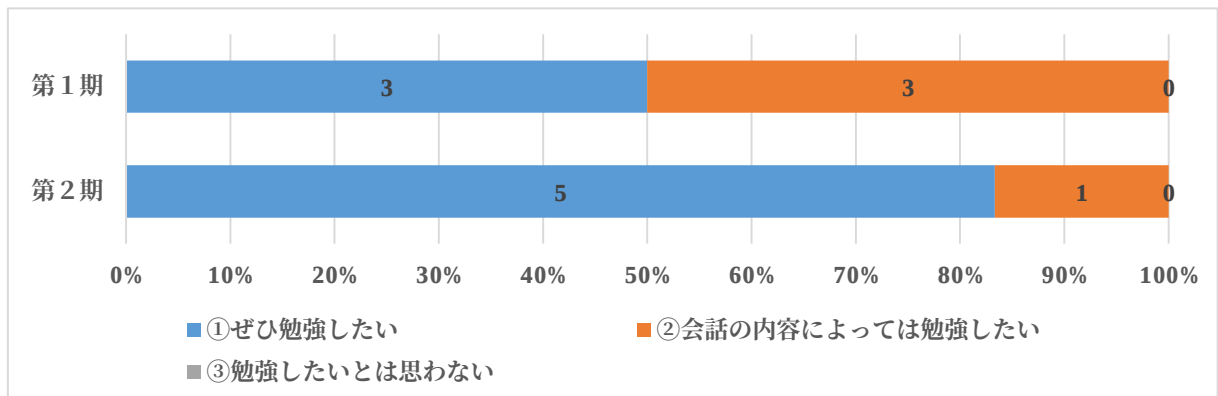
【問2】勉強するテーマについて、前より日本語がわかるようになりましたか？



【問3】 テーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか？



【問4】 次に会話を勉強する教室がある時も勉強したいと思いますか？



【問4－2】（問4で①②と答えた人だけ）どんな内容の会話を勉強したいですか？

<第1期>

- ・ 買い物の会話。
- ・ 料理
- ・ 何でもいいです。

<第2期>

- ・ 仕事を探す時。
- ・ 災害の時（地震、台風）
- ・ もっとたくさんの話し方を勉強したい。

【問5】教室で覚えて、使えそうな言葉や、今使っている言葉はありますか？

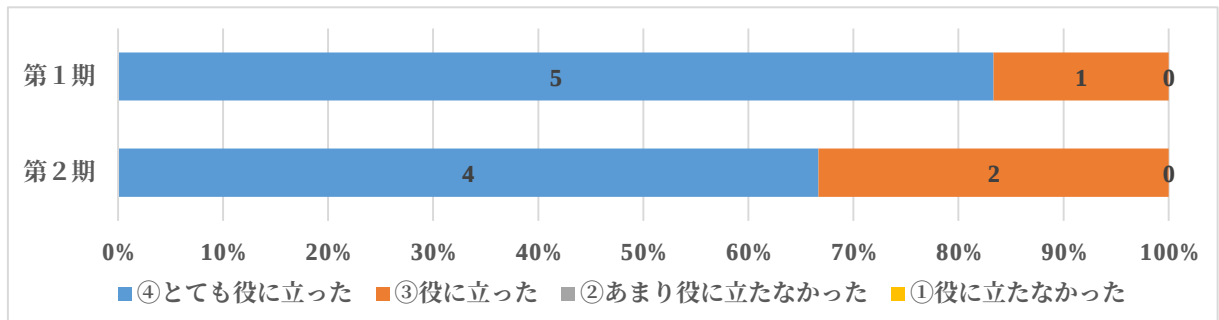
＜第1期＞

- ・「おなかが痛い」「内科」「漢字」

＜第2期＞

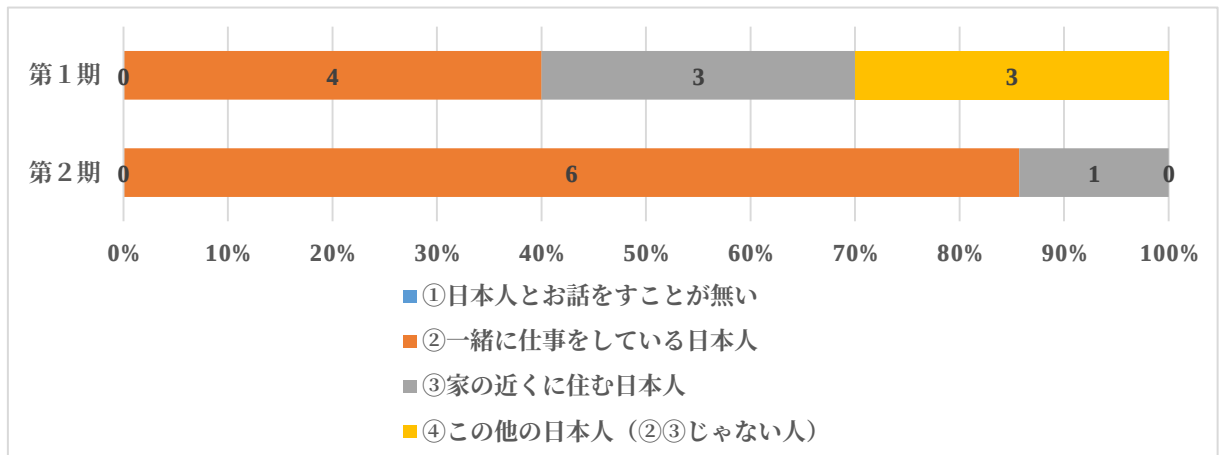
- ・「救急です」
- ・「初診」「問診票」
- ・「火事」「救急車」「西」「南」

【問6】この教室は、日本人と話す練習をするために役に立ちましたか？

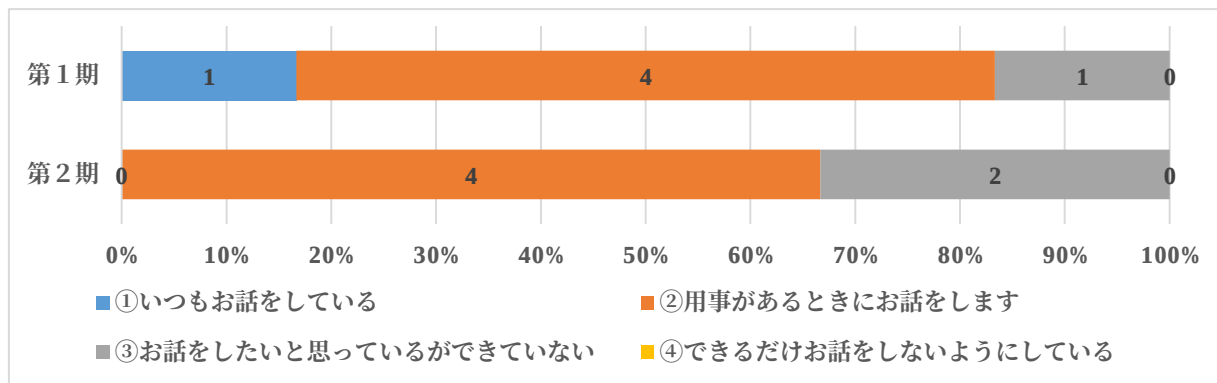


＜あなたの生活について教えてください＞

【問7】あなたは日本人とお話をしますか？だれとお話をしますか？（いくつ選んでもよいです）（一部複数回答あり）



【問8】あなたは、あなたの家の近くに住む日本人とお話をしますか？



【問9】日本語じゃなくてよいので、思ったことを自由に書いてください。

<第1期>

- ・漢字の勉強をしたい。漢字のコース。料理 {和食}。
- ・もっと勉強したい。日本語上手になりたい。今、日本人と会話は、簡単な会話はできる。でも難しい言葉はできない。仕事用の会話を勉強したい。面接用の言葉とか、仕事の時使う言葉とか、生活用の言葉をもっと勉強したい。
- ・日本料理を学びたい。(訳)
- ・私はクラスを楽しみました。すべての先生が親切で非常にいいです。私は感謝しなければなりません。(訳)
- ・勉強は楽しかったです。知らない言葉をたくさん学びました。教室では楽しんで会話ができました。先生たちは親切でした。本当にありがとうございました。(訳)
- ・泥棒の勉強の時間はちょっと難しかったです(「警察との会話」をテーマにした学習で、盗難等の被害にあった時の説明の仕方を学んだことについての感想)。

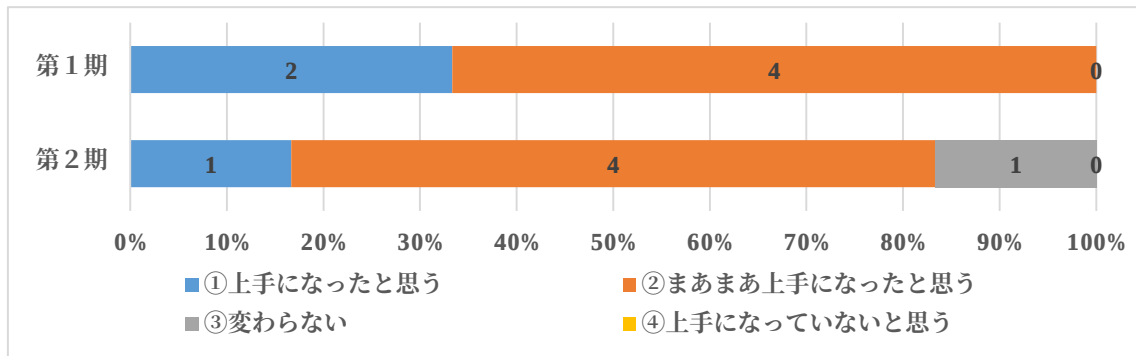
<第2期>

- ・とてもわかりやすくて楽しかった。
- ・話す練習をもっとしたいです。(訳)

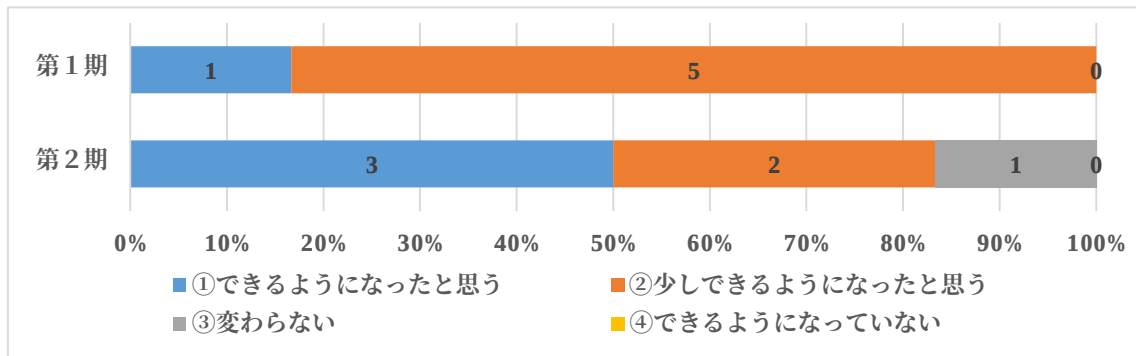
※ () 内は事務局による補足。(訳) とあるものは事務局により翻訳して掲載したもの。

<文化庁からのアンケート>

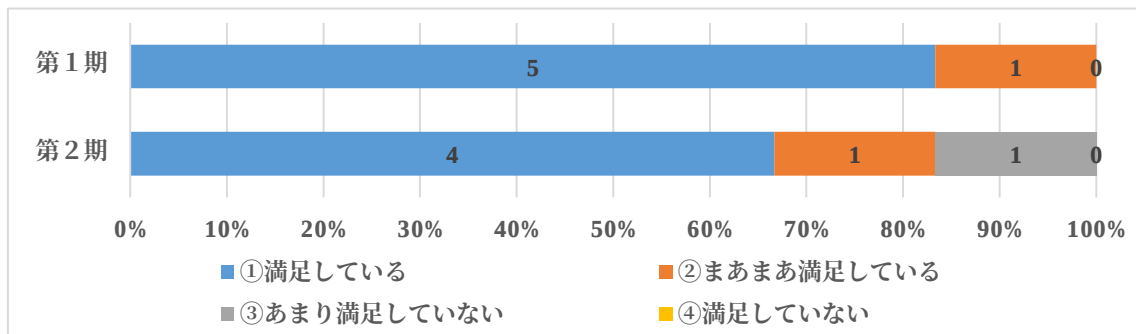
【問１０】このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか。



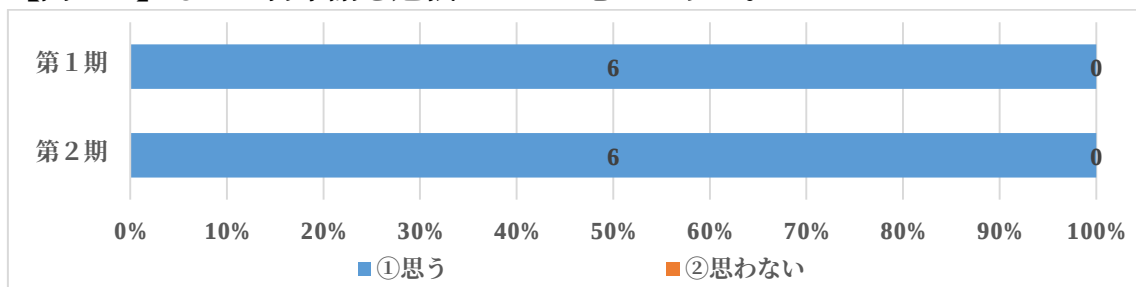
【問１１】このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか。



【問１２】このプログラムの内容に満足していますか。



【問１３】もっと日本語を勉強したいと思いますか。

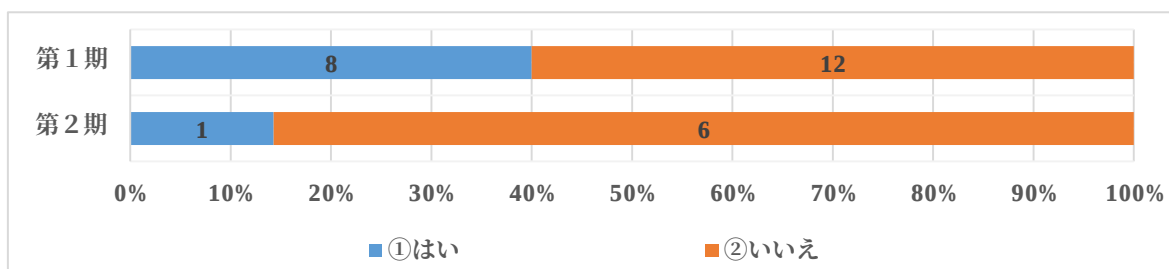


日本語指導ボランティア講座 受講者アンケート集計結果

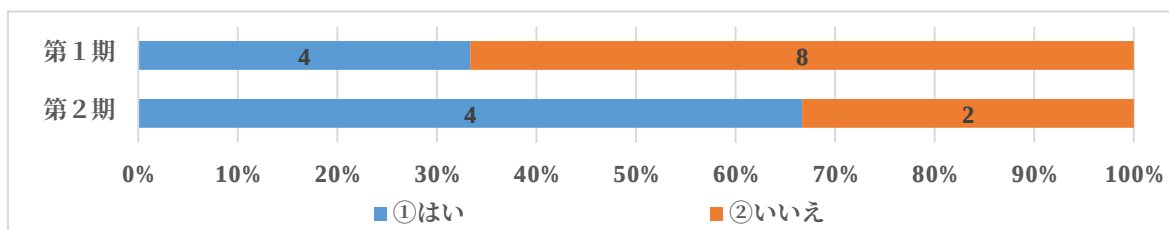
回収数：第1期 20人（参加者数32人）
第2期 7人（参加者数21人）

＜日本語指導ボランティア講座についてお尋ねします＞

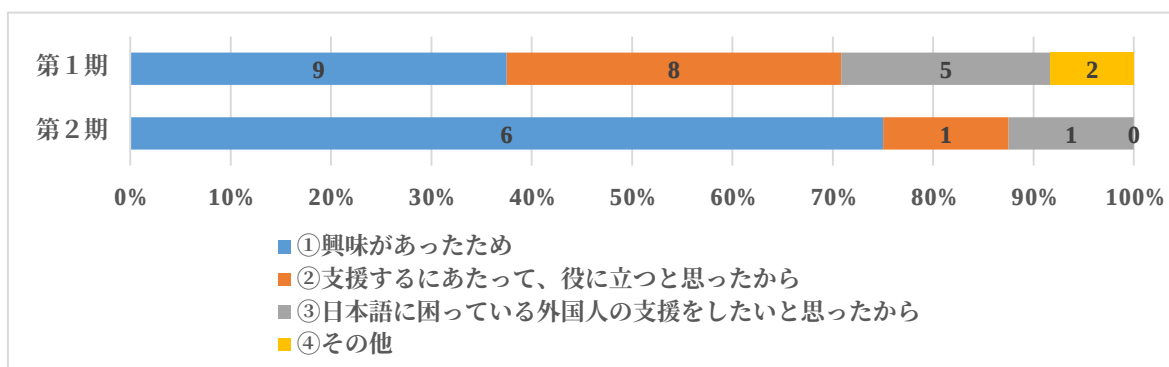
【問1】現在、日本語指導ボランティアとして活動中ですか。



【問1－2】（問1で②いいえと答えた方にお聞きします）この講座を受講される前、外国人市民の日本語学習支援があることをご存知でしたか。



【問2】この講座を受講された理由は何ですか。（一部複数回答あり）

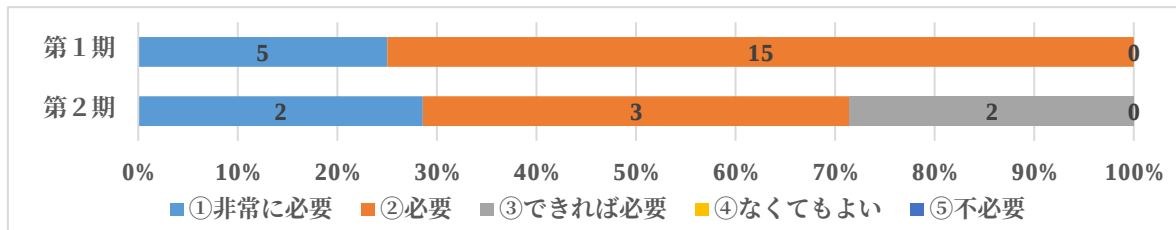


④その他

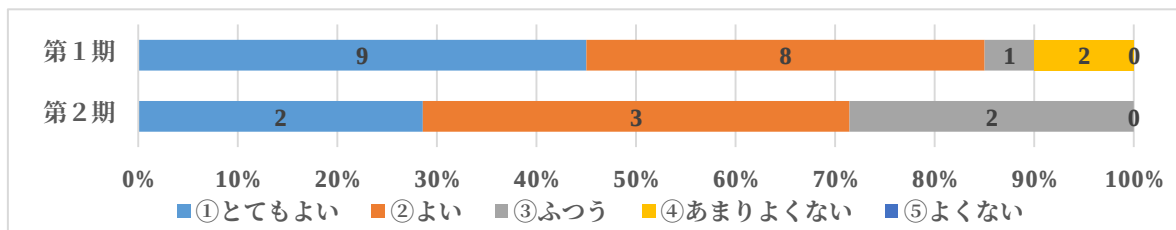
＜第1期＞

- ・時間に多少余裕ができたから。
- ・友達に誘われて。

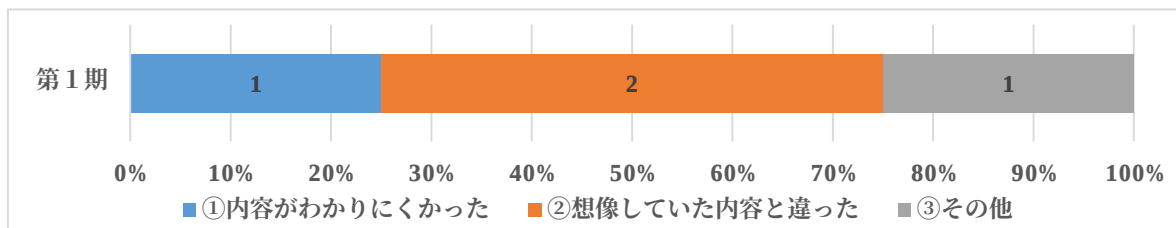
【問3】 この講座を受講される前と比較して、外国人市民にとっての日本語学習の支援の必要性をどのように感じましたか。



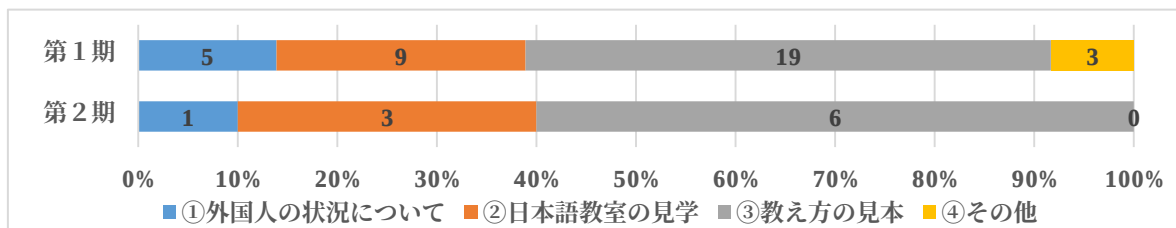
【問4】 この講座に参加して、外国人の日本語学習支援をするにあたり、よい内容でしたか。



【問4-2】（問4で④、⑤と答えた方のみ）理由を教えてください。（一部複数回答あり）



【問5】 今回の講座の内容で、今後も受講してみたいと思われたものはありますか。（複数回答可）



④その他

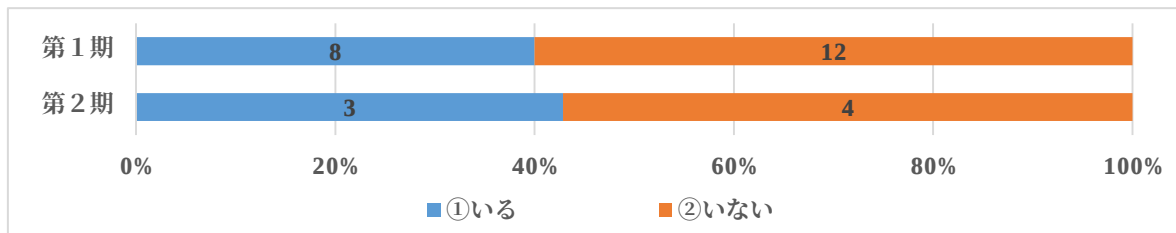
<第1期>

- ・外国人の生の声・悩みなど。
- ・ボランティアの実例の発表が聞きたい。リアルな話が聞きたい。
- ・外国の方がどのように日本語を学習してきているのか知りたい。例：イ形容詞、ナ形容詞など私が知らなかった外国の方が学習するための特別なことばなど。
- ・ボランティア経験者から、具体的に進められた内容と問題点の発表を聞いた

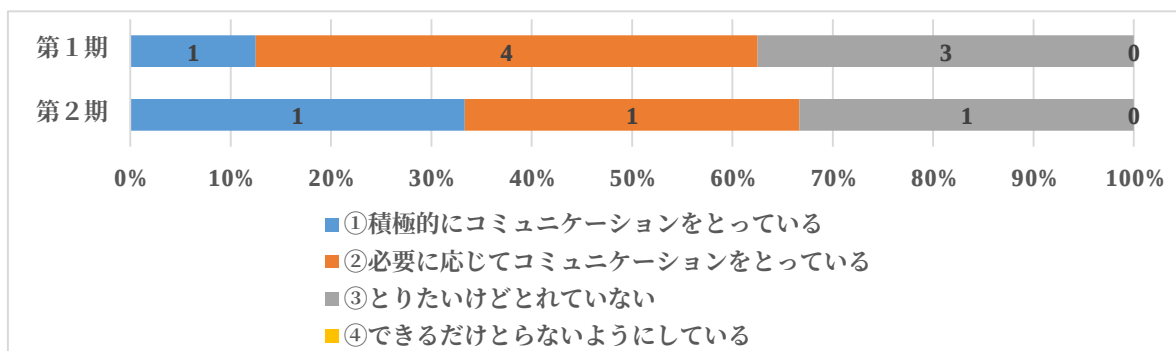
い。

＜外国人との共生についてお尋ねします＞

【問6】お住まいの地域や職場に外国人はいますか？



【問6－2】（問6で、①と答えた方のみ）外国人とコミュニケーションをとることはありますか？



【問7】外国人との共生について、普段どのようなことを実践されていますか？
（自由にご記入ください）

＜第1期＞

- ・あまり接点がないので、実践していません。
- ・自治会や学校などではありますが、個人的にはありません。
- ・子供が学校に通っている時は、PTAなどで係わることもあり、困っていることを手助けしたりすることがありましたが、今は係わることはないのもこれといって実践していることはありません。
- ・現在日常生活では外国人の方との接点はありませんが、最近自分自身も英語を習っていて、外国人の方と話す機会があれば少し積極的に話しかけられたらいいと思い、とても参考になりました。
- ・身近に接することが無いですが、もし機会があれば生活がしやすいようにサポートしてあげたいと思います。
- ・接点が無いので、日曜日に会話のグループに参加をしていきたいと思います。
- ・外国人の方たちの状況がよくわからないので、こちらから声をかけることは遠慮しているが、質問されたり困っている様子が見受けられた場合は、受け答えする準備はしている。でも、なかなかそういう場面に出くわす機会が無くて残念。
- ・自身も短期留学でホームステイをさせて頂いて、不安な中近所の方によくし

て頂いた経験より、自分のお家でホームステイやコミュニティの場を作っていきたいので、まだまだこれからですが、実践します。

- ・腹が立つことが少々あります。タイミングを見つけて話している。
- ・普通に接するように心がけている。
- ・困っている人がいたら積極的に話しかけている。
- ・できるだけ声かけしている（先ず挨拶から）。

<第2期>

- ・簡単な（わかりやすい）日本語を使う。
- ・日本語教室（瑞穂市日本語サポーターズにて）。
- ・親しみを持ってもらえるようなジェスチャーと表情で対応するよう心掛けている。

【問8】講座の感想や今後の講座へのご要望、当協会へのご意見等、ご自由にご記入ください。

<第1期>

- ・このような講座をありがとうございました。
- ・日本語の使い方が難しい事がわかりました。自分も日本語勉強していきたいと思います。
- ・多方面からの知識、日本語学校での教師と、進む道は広がりました。丁寧に教えて頂きありがとうございました。外国の方が大垣の町が大好きで、毎年来るといった声をたくさん聞けるような活動をしていきたいです！
- ・講座はとても良いので次回も期待しています。活動に参加でき楽しいです。
- ・ボランティアしている中で行きづまっていることなどの参考になりました。
- ・協会に教材のある事を知らなかった。個人レッスンの前に見ておきたい。
- ・参加したい。
- ・具体的にボランティアに参加するにはどうしたらいいのですか。（その後、個別に説明をしてボランティア登録をしてもらった。）
- ・現在はなかなかボランティア活動に参加する事は難しいですが、将来的にできればいいなあとと思っています。
- ・日本語教室見学の場合、見学だけにとどまらず、参加型とし学習者の中へ入り、簡単な指導をするようなこともあったらいいかと思う。あまり専門的なことはこの講座では必要ないように思います。参加者の方との交流の場があるといいかと思いました。長い間ありがとうございました。大変参考になりました。次回も参加したいと存じます。
- ・外国人の生徒さんの教材を使って教えてください。
- ・講座の内容が少々難しかったです。基本的な日本語に対しての文面（文法）等は難しかったです（最後の講座など）。身近な簡単な内容がいいですね！
- ・実践している方には大変有効な気がします。初めての者にとっては気が重

くなる気がします。

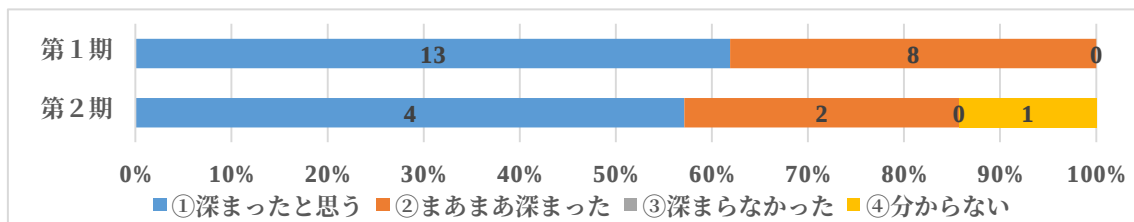
<第2期>

- ・外国人との共生が身近になりつつあることを実感しました。
- ・講座の中で、もう少し実践を体験するのが良いと思いました。
- ・実際の日本語の教え方の1例（事例）、過去のトラブル例等の説明。
- ・マンツーマンの指導にはまだ自信がないが、サブ的な立場で指導できる場面なら・・・と少し気持ちは傾いている。

<文化庁からのアンケート>

【問9】

このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の理解が深まったと思いますか。



【問10】

このプログラムを受けて、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。（※日本語教育のボランティアをしたことがない方のみお答えください。）

